

診察室血圧と夜間家庭血圧で定義した夜間仮面高血圧の心血管イベントリスク

藤原 健史

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門

【目的】 診察室血圧と夜間家庭血圧を用いて定義した夜間仮面高血圧の心血管イベントリスクを検討する。

【方法】 1つ以上の心血管イベントリスクを有する外来通院中の患者を対象とした前向き観察研究であるJ-HOP Nocturnal BP研究のデータを用いた。診察室血圧は1機会あたり3回測定し、異なる2機会の平均値を用いた。夜間家庭血圧は1晩3回測定し、2週間の平均値を用いた。

【結果】 2,545名の登録患者(平均年齢63歳、男性49%、降圧剤服用者83%)の内、正常血圧(診察室血圧<140/90 mmHgかつ夜間家庭血圧<120/70 mmHg)、白衣高血圧(診察室血圧 \geq 140/90 mmHgかつ夜間家庭血圧<120/70 mmHg)、仮面夜間高血圧(診察室血圧<140/90 mmHgかつ夜間家庭血圧 \geq 120/70 mmHg)、持続性夜間高血圧(診察室血圧 \geq 140/90 mmHgかつ夜間家庭血圧 \geq 120/70 mmHg)の割合はそれぞれ25.3%、14.4%、23.2%、37.1%であった。平均追跡期間7.1年で、152例の心血管イベントが発症した。正常血圧と比較して、夜間仮面高血圧と持続性夜間高血圧で心血管イベントの累積発症率が高く、昼間家庭血圧レベルを含む調整因子で補正後もそのリスクは有意であった：夜間仮面高血圧(ハザード比1.72, 95%信頼区間1.01-2.92)、持続性夜間高血圧(ハザード比1.75, 95%信頼区間1.03-2.96)。

【結論】 夜間仮面高血圧のスクリーニングは、心血管イベントリスクが高い患者を効果的に特定する手段であり、予防的介入が必要である。